



2021年11月11日

各位

会社名 ENEOSホールディングス株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 大田 勝幸  
 コード番号 5020 東証・名証第1部  
 問合せ先 インベスター・リレーションズ部 IRグループ マネージャー  
 井上 亮  
 (電話番号 03-6257-7075)

## 2022年3月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2021年5月12日に公表いたしました2022年3月期通期連結業績予想(以下、「前回予想」)を下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

## 記

## 1. 2022年3月期 通期連結業績予想数値の修正 (2021年4月1日～2022年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	税引前利益	親会社所有者 に帰属する 当期利益	基本的 1株当たり 当期利益
前回発表予想(A) (2021年5月12日発表)	9,500,000	260,000	240,000	140,000	43円60銭
今回修正予想(B)	10,300,000	470,000	450,000	280,000	87円19銭
増減額(B-A)	800,000	210,000	210,000	140,000	43円59銭
増減率	8.4%	80.8%	87.5%	100.0%	100.0%
(ご参考)前期実績 (2021年3月期)	7,658,011	254,175	230,891	113,998	35円48銭

(注) 2021年8月13日公表の通期の連結業績予想では、5月12日公表を据え置きました。

## 2. 修正の理由

前回予想以降、原油価格や銅価格等の資源価格が上昇し高水準で推移していることに加えて、データ通信需要の増大に伴う機能材料・薄膜材料の増販等が見込まれることから、営業利益は、前回予想から2,100億円増益の4,700億円となる見通しです。

2,100億円増益のうち、在庫影響\*による良化が1,300億円、在庫影響を除いた営業利益相当額は、800億円の増益となっております。

なお、親会社の所有者に帰属する当期利益も同様に、前回予想から増益となる見通しです。

## &lt;営業利益に占める在庫影響&gt;

(単位:億円)

	前回予想	今回予想	増減額
営業利益	2,600	4,700	2,100
在庫影響	300	1,600	1,300
在庫影響を除いた営業利益相当額	2,300	3,100	800

\* 総平均法及び簿価切り下げによるたな卸資産の評価が売上原価に与える影響

また、事業セグメント別の在庫影響を除いた営業利益相当額については、石油・天然ガス開発事業は原油・ガス価格の上昇により前回予想比 300 億円の増益、金属事業は銅価格等の資源価格の上昇やデータ通信需要の増大に伴う機能材料・薄膜材料の増販等により前回予想比 500 億円の増益を見込んでおります。

＜事業セグメント別内訳＞在庫影響を除いた営業利益相当額 (単位：億円)

	前回予想	今回予想	増減額
エネルギー事業	750	750	0
石油・天然ガス開発事業	450	750	300
金属事業	600	1,100	500
その他の事業	500	500	0

なお、本見通しは、通期平均で原油価格(ドバイ原油)；バーレル当たり 70 ドル(10 月以降 70 ドル)、銅の国際価格(LME 価格)；ポンド当たり 420 セント(10 月：440 セント、11 月以降：400 セント)、円の対米ドル相場；110 円(10 月以降 110 円)を前提としております。(前回予想：原油価格；バーレル当たり 60 ドル、銅の国際価格；ポンド当たり 340 セント、円の対米ドル相場；105 円)

(注) 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、(1) マクロ経済の状況又はエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化、(2) 新型コロナウイルス感染症による経済活動への影響、(3) 法律の改正や規制の強化、(4) 訴訟等のリスクなど、が含まれますが、これらに限定されるものではありません。

以 上